

地域経済をリードする産業栽培メディア!!

Monthly

# コロパス

2005

4

APR.

680円

e・コロパス4月号増刊  
昭和50年3月26日第1種郵便物認可  
平成17年3月31日発行 通巻389号

ビジネスの新大陸を発見!! **COLUMBUS**

HOT angle

## 先祖・村上水軍の精神を引き継いで闘う

# 「特区」の本番はこれからだ!!



◆華北導報

わずか9年、社員15名から  
中国広告業界ナンバーワンに!!

インタビュー／増田英樹(オムロン株式会社 特別顧問)  
ゲスト／山村正一(株式会社電通 上席常務執行役員)

◆編集長インタビュー／コロパス特選銘柄

目標8000店!! ラーメンの  
マクドナルドを目指す!!

ゲスト／新井田傳  
(福島県郡山市・株式会社幸楽苑 代表取締役会長)

◆企業探検家・野長瀬裕二が行く!!

国産十割そばで  
"そば屋の再生"をはかる!!

ゲスト／吉野邦彦  
(群馬県前橋市・株式会社吉野工房 代表取締役)

◆企業再生の達人たち vol.15

銀行が信用しない  
崩壊寸前の中小企業を再生!!

◆コロパス総研の景気予報!

全国のビジネス研究会に聞きました!!  
4月～5月上旬の地域経済動向

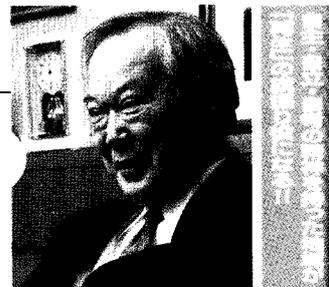
●聞き手

本誌編集主幹 並河信乃  
(社・行革国民会議理事  
兼事務局長)

### 地回り 経済対談

●ゲスト

村上誠一郎  
(内閣府特命担当大臣)



ふるさとお国自慢シリーズ  
**北海道東京事務所**

編集主幹  
並河信乃  
の地回り  
経済対談

ゲスト・村上 誠一郎 (内閣府特命担当大臣)

「自主・自立・自考」の精神を持った  
地域が「再生」の旗振り役になる!!

構造改革特区、地域再生などに向けた「アイデア合戦」が広がりを見せてきた。こうしたなか、「地域再生法案」が国会に提出された。新法制定は、地域に新たな活力を生むことができるか。また、地域経済の展望はいかに。村上誠一郎内閣府特命担当大臣に聞いてみた。

喫緊の課題は「財政」「教育」  
そして「経済」の改革だ

並河信乃・本誌編集主幹 村上大  
臣は「村上水軍」(注)の末裔だ

そうですね。

村上誠一郎・内閣府特命担当大臣

愛媛県の能島出身です。この体格と、祖先が村上水軍だということ  
で「武闘派」などといわれるので

すが、まったくの誤解で、根は心  
優しい人間です(笑)。

並河 現在のポストに就任なさっ  
て半年ほどが過ぎましたが、あら  
ためて目指すものを聞かせてくだ  
さい。

村上 小泉内閣の重要案件として  
は道路公団、郵政の民営化がある  
わけですが、それとは別に日本が  
直面する緊急課題が3つありま

す。財政再建、経済改革、そして  
教育の建て直し。これらを速やか  
に実行に移さなければと考えてい  
ます。

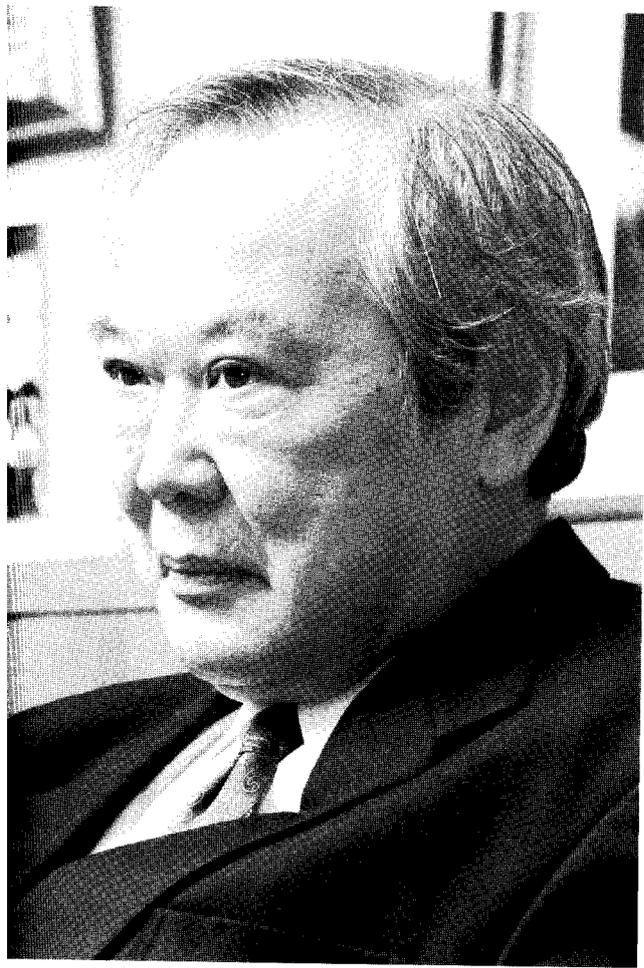
並河 どれも重要かつ「重い」テ  
ーマですね。

村上 財政においては行政改革と  
いうことで歳出削減に一生懸命取  
り組んでいるわけですが、同時に

歳入の欠陥構造を何とかしなければ  
根本的な打開はむずかしい。膨

大な財政赤字は、将来の世代への  
「ツケ回し」のようなもの。中長  
期的な視点に立って着実に削減  
し、財政を正常な状態に建て直し  
ないと、国の存在自体が危うくな  
ってしまいます。

それから教育。ここ数年、経済  
界でも行政でもわれわれ国政の現  
場でも、残念ながらさまざまな不  
祥事が起こっています。「教育」  
という根幹が欠けているのではな  
いでしょうか。これは私が実感し  
たことですが、あるとき突然、  
「役所」の力量が落ちたなあと感  
じたことがあるのです。それは、  
旧制高校などで戦前の教育を受け  
た人間が、次官や局長クラスから



村上水軍・・・伊予の守護、河野氏配下だった村上氏は、海上交通の要所に城を構え、付近を航行する船の水先案内や警護で、「海の大名」といわれるほど威勢をふるった。



軒並みリタイヤしたからです。しばらくしたら雪印や三菱自動車、企業の不祥事が頻発するようになつた。企業トップの世代交代は役所に比べ、10年ほどタイムラグがありますから、これまた、戦前の教育を受けた人たちが退場した時期と一致するのです。戦後、倫理教育がおろそかにされたから、こうなってしまったのではないのでしょうか。

**並河** 昨今は、「ゆとり教育」が問題になっています。基礎学力が非常に低下しました。

**村上** 読み書きソロバンの能力は

明らかに落ちています。経済の停滞も、それと無関係には思えません。あの『プロジェクトX』の世界が昔話になってしまっている。世界に羽ばたいた企業のイノベーションの力はすごかった。それを支える人材が日本中にいたので、とところが、そういう基礎学力を持った人が少なくなってしまう。「ソフト重視」の風潮が強まったこともあって、技術革新が思うように進まなくなってしまうのです。

**並河** いまの日本は、大学に入学してしまえば教育は終わり、とい

つた風潮ですから。

**村上** だから、中学・高校時代に自分でテーマを見つけて勉強するといった訓練が、あまり行われていない。これが、日本社会から活力を失わせた大きな原因だと思えます。

### 「平成のアイデア合戦」が地域活性化に結びつく

**並河** さて、活気を失っている地域経済をどうするかです。ときに、村上大臣の地元である愛媛県は、1人当たり県民所得で全国41位です。

**村上** たしかに地場産業は苦しいし、解決しなければならぬ問題はたくさんあります。ただし、悲壮感はありません。なぜなら、米も野菜も、日本一おいしい瀬戸内海の魚も、ぜんぶ自分の目の前で穫れる。恵まれすぎているから、数字はあまり気にしない(笑)。第一、「可処分所得」を考えてみてください。物価は東京の3分の1ぐらいの感覚です。通勤地獄もないし。

ついでに言えば、造船、海運、タオルといった地場産業は、ぜん

ぶ「刻苦勉励型」です。「しわい」という方言があるのですが、非常に人間がシッカリしている。だから貯蓄性向は日本一なのです。

**並河** なるほど。豊かさは県民所得だけでは測れない。

**村上** 何をもって「豊か」と表現するかです。例えば、ドイツやスイスなどヨーロッパの田舎町では、みんなが生まれたところで働き、その土地に愛着と誇りを持って生きているでしょう。ああいう生活こそが、人間としての本当の意味での豊かさ、幸せなのではないでしょうか。

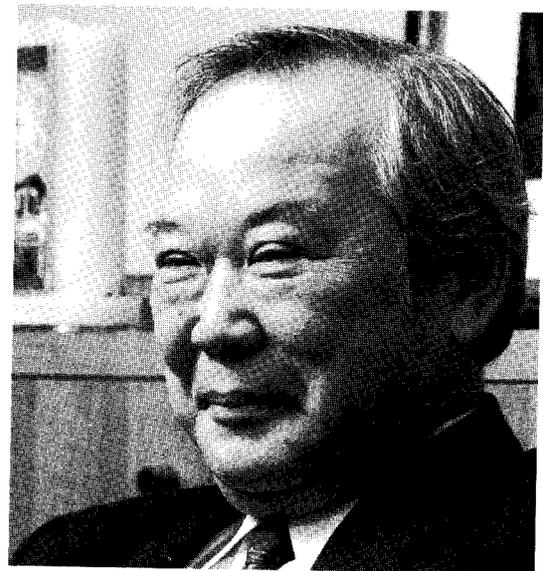
ですから、地域を再生するためには、従来の中央集権的なやり方をあらためて、地域の潜在能力を引き出すような施策を実行に移す必要があると思うのです。

「補助金バラマキ、全国一律」から、「地域の歴史や特性、力を引き出し、自主・自立・自考の精神でやっていこう」というところを、優先的にサポートする」というやり方です。今、取り組んでいる地域再生は「平成のアイデア合戦」なのです。

**並河** ただ、地域経済を支える産

業が衰退してしまつては、その地域が活力を生むのはむずかしいように思えます。その点はいかがでしょうか。

**村上** 私が20年前に初めて選挙に立った当時、今治市だけでタオル会社が500社ありました。現在とは隔世の感があります。ご存じのように、コストの安い中国製品に市場を奪われてしまつたわけですが、では完全に駆逐されてしまつたかといえば、そんなことはない。ちなみに、ドイツではタオル会社がすべてなくなつてしまつたと聞いています。労働集約型産業はほとんどすべて「捨てて」しまつた。しかし、今治は違ふんです。品質で勝負に出たメーカーが見事に勝ち残つた。高級バスローブなどは欧米などへの輸出も増えてきました。付加価値を付ければそれをほしがる人たちもいるのです。日本はこれまで、「いいモノを安く売る」という基本姿勢で成功を収めてきたのですが、これからは「付加価値を付けて高く売る」とことをもつと考へていかなければいけないでしょう。そのためには、ある程度、規模を集約化せざるを得ない。それがグローバル化時代のひとつの結論だと思います。それは国全体にも、そして当然、地域経済、地場産業にも当てはまるのではないのでしょうか。



**並河信乃**(なみかわ・しの)  
行革国民会議事務局長。故土光敏夫経団連会長の秘書として土光臨調に参加。以後、民間の立場から地方分権など行革推進の論陣を張る。本誌編集主幹

**並河** さきほど「アイデア合戦」というお話がありました。まさにその具体的な取り組みである「構造改革特区」を、どう評価していますか。

**村上** 正直な感想をいえば、担当するまでは「特区」がこんなにごいものだとは思いませんでした。文字どおり、「宝の山」です。**並河** 印象的な例をいくつかあげてください。

**村上** 例えば、三重県四日市市の「技術集積活用型産業再生特区」。このコンビナートはレイアウト規制により、最新式の工場への建て替えがなかなか進まなかつたのですが、水幕施設を設置するといつ

た代替措置が認められたために、建て替えが可能になりました。新たな設備投資はおよそ700億円だそうです。これなんか、見事な発想の転換。アイデア賞モノです。また、埼玉県草加市の「ふるさと学び舎・再生プロジェクト」にも、アツと思われました。現在、学校の天井の高さは3層以上という基準があるのですが、これを「2・7層以上」に引き下げたことを求めたもの。これだけでなんと、学校の建て替え費用が5階建ての場合、約80

00万円もダウン可能だそうです。ほかにもユニークな取り組みが全国各地から発信されています。**並河** 愛媛県は、ちよつと少ないのでは(笑)。

**村上** 「灯台下暗し」で(笑)。でも、本番はこれからだと思います。地方では特に、まだまだ特区に対する理解が進んでいない面があります。

重要なのは、特区提案、つまり、特区の対策となる規制の特例のメニュー追加に関する提案は自治体だけではなく、企業や個人など誰でも提案することができるということ。福岡県久留米市の「カブトムシ特区」は、家畜排泄物の管理基準の適用除外を認めて、糞の野積みを含めて通り可能にするこ





村上演一朗 (むらかみ・せいいちろう)  
52(昭和27)年、愛媛県生まれ。東京大学法学部を卒業後、河本敏夫通産大臣・自民党政務調査会長・経済企画庁長官秘書を経て、86(昭和61)年7月、第38回衆議院議員総選挙に初当選。大蔵政務次官、財務副大臣などを歴任し、04(平成16)年、内閣府特命担当大臣に就任。現在に至る。

とで、カブトムシ幼虫の飼育を続けさせてほしいという要求。提案したのは、長年、ボランティアでカブトムシを育て、学校などに無償配布してきた酪農家の方です。  
**並河** 提案を受ける国の側の対応も大事になりますね。  
**村上** いちばん重要なのはスピードです。省庁を越えた折衝などが必要になるとき、時間がかかりそうなケースでは、トップ交渉も辞さず取り組みたいと考えています。

た。大規模災害時の医療技術を海外に広めようと、阪神大震災を経験した兵庫県が申請した特区なのですが、スマートフォンや地震などもあり、これは急ぐ必要があると考え、私が尾辻さん(厚生労働大臣)に直接会ってお話したのです。やればできるのです。  
**地域再生法でヤル気のある地方を応援したい**  
**並河** 最後に、今国会で「地域再生法案」が可決されましたが、施行されるとどのような効果があるのかお聞かせください。  
**村上** この法律には3つの支援措置が盛り込まれています。ひとつは、自治体の「使い勝手」を向上させた交付金制度の創設です。各省庁にまたがる案件などについても、手続きを一元化、簡略化

するとともに、運用面での自由度を高めた画期的な措置です。必要なところに素早く支援が行える体制が整ったと思っています。  
第二が地域再生に役立つ事業を行う企業に、民間資金を誘導するための税制上の特例措置。地域再生には、やはり民間企業の力が必要になります。ところが、例えば地域のコミュニティバスのような事業はどうしても収益性が高くありません。そこで、こうした事業に対する投資に対しては、投資額を控除するなどの課税の特例を設け、資金が集まりやすくするわけです。  
第三が「補助金等適正化法」の特例の創出なのですが、これには縁を感じます。実は50年前にこの法律をつくったのが、伯父の村上孝太郎(元大蔵省事務次官・参議院議員)なのです。

**並河** そうなんですか。  
**村上** 今回特例を設けて、例えば廃校になった校舎など補助金でつくった施設でも、当初の目的とは違う用途への転用を手続面で言いやすくしています。結果、既存施設の有効活用が進むはずですよ。  
**並河** 日本の将来を考えると、現在が重大な岐路にあるのはたしか。誤らず、ふたたび輝きを取り戻せるようがんばってください。  
**村上** 私のポジションをよく考えると、「道路公団と郵政以外の構造改革はお前に任せた」ということだと思っています。やりがいを感じるのと同時に、責任の重さに身の引き締まる思いです。

**村上** 水軍の家訓は、「天下国家が危急の際には、親兄弟の屍を乗り越えて戦え」。今の日本はまさにそんな状況ですから、水軍の精神を引き継いで全力で問題解決に当たりたいと思っています。  
**並河** ありがとうございます。

